

資料編

1 播磨町の宣言

町章



播磨町の「ハリマ」を図案化したものであり、下側の開いた部分は港を表現しており、播磨町が港を中心に末長く栄えるようにとの願いが込められています。

シンボルマーク



人と人が心をかよわせあいながら信頼関係を築き、「共に生きようとする」姿を表現し、色は対話のある温かい人間関係と差別のない明るい未来を表わしています。

播磨町住民憲章

歴史を物語る古代の村、自然の恵みと先人の努力により栄えてきたわがまち播磨、このまちを平和でさらに生きがいのあるふるさとに育てるため、この憲章を定めます。

(昭和 57 年 3 月 27 日制定)

わたしたちは

1. 花と緑を育て、うるおいのあるまちをつくりま
1. たがいに尊敬しあい、ふれあいの輪を広げま
1. 働く喜びを味わい、明るい家庭をきずきま
1. スポーツに親しみ、健康なからだにきたえま
1. 学びを深め、豊かな文化を育てま

人権尊重「共に生きよう ふれあいのまち」宣言

ゆかしい歴史と恵まれた自然の中に生きる私たちは、心豊かに幸せな生活を送りたいと願っています。そのために、一人ひとりがお互いのいのちと人権を大切にし、共に学び、仲間としてふれあい、共感の輪を広げていきます。

ここに、わたしたちは人権尊重の原点に立ち、『共に生きようふれあいのまち』を宣言します。

みんなの暮らしにぬくもりがかよいあう明るいまちづくりをめざし、誇りをもって 21 世紀の扉をひらくよう努めます。

(平成元年 4 月 28 日宣言)

わたしたちは

1. 人権意識を高め、あらゆる差別をなくしま
1. 学習をすすめ、正しい生き方を身につけま
1. ふれあいを深め、あたたかい人間関係を築きま

2 播磨町生涯学習推進計画策定委員会設置要綱

令和2年1月28日
教育委員会要綱第1号

(設置)

第1条 生涯学習のための施策に関し、基本理念を定め、生涯学習のための施策を総合かつ計画的に推進するための基本計画を策定するため、播磨町生涯学習推進計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 播磨町生涯学習推進計画の策定に関すること。
- (2) その他関連する事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、委員10人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱し、又は任命する。

- (1) 学識経験者
- (2) 学校関係者
- (3) 社会体育関係団体代表者
- (4) 社会教育関係団体代表者
- (5) 社会福祉団体代表者
- (6) 障害者団体代表者
- (7) 自治会代表者
- (8) 高齢者団体代表者
- (9) 町職員
- (10) その他教育委員会が特に必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、第2条に規定する事務が終了するまでとする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会は委員長及び副委員長を置き、委員長は委員会の互選によって定め、副委員長は、委員長が指名する。

- 2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議（以下「会議」という。）は、委員長が招集し、委員長がその会議の議長となる。

- 2 委員長が必要と認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、教育委員会生涯学習グループにおいて処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関して必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、公布の日から施行する。

(この要綱の失効)

2 この要綱は、計画案の策定をもってその効力を失う。

(招集の特例)

3 この要綱の施行の日以降の最初に開かれる会議は、第6条第1項の規定にかかわらず、教育長が招集する。

3 播磨町生涯学習推進計画（第3次）策定委員会委員名簿

(敬省略)

氏名	所属
尼木 智美	NPO法人スポーツクラブ21はりま
猪 垣 敦	兵庫県立播磨南高等学校
江 草 誠	播磨町立播磨中学校
木 下 康雄	NPO法人まちづくりサポートはりま
小 西 茂行	播磨町シニアクラブ連合会
武 田 健二	教育委員会理事
西 野 英三郎	播磨町社会福祉協議会
政 本 和子	NPO法人文化・福祉・人権サポートアエソン
森 田 孝明	社会教育委員
山 本 一美	播磨町立図書館

事務局 教育委員会 生涯学習グループ

4 生涯学習についてのアンケート調査

■ 調査の概要

○ 調査の目的

生涯学習推進計画の策定の基礎資料として、調査を実施しました。

○ 調査対象

播磨町在住の20代から80代の方を無作為抽出

○ 調査期間

令和2年10月20日から令和2年11月9日

○ 調査方法

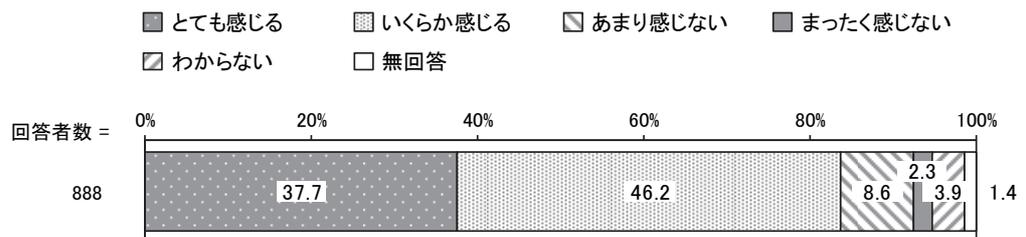
郵送による配布・回収

○ 回収状況

配布数	有効回答数	有効回答率
2,000 通	888 通	44.4%

① 播磨町に対する親しみや愛着（問8・単数回答）

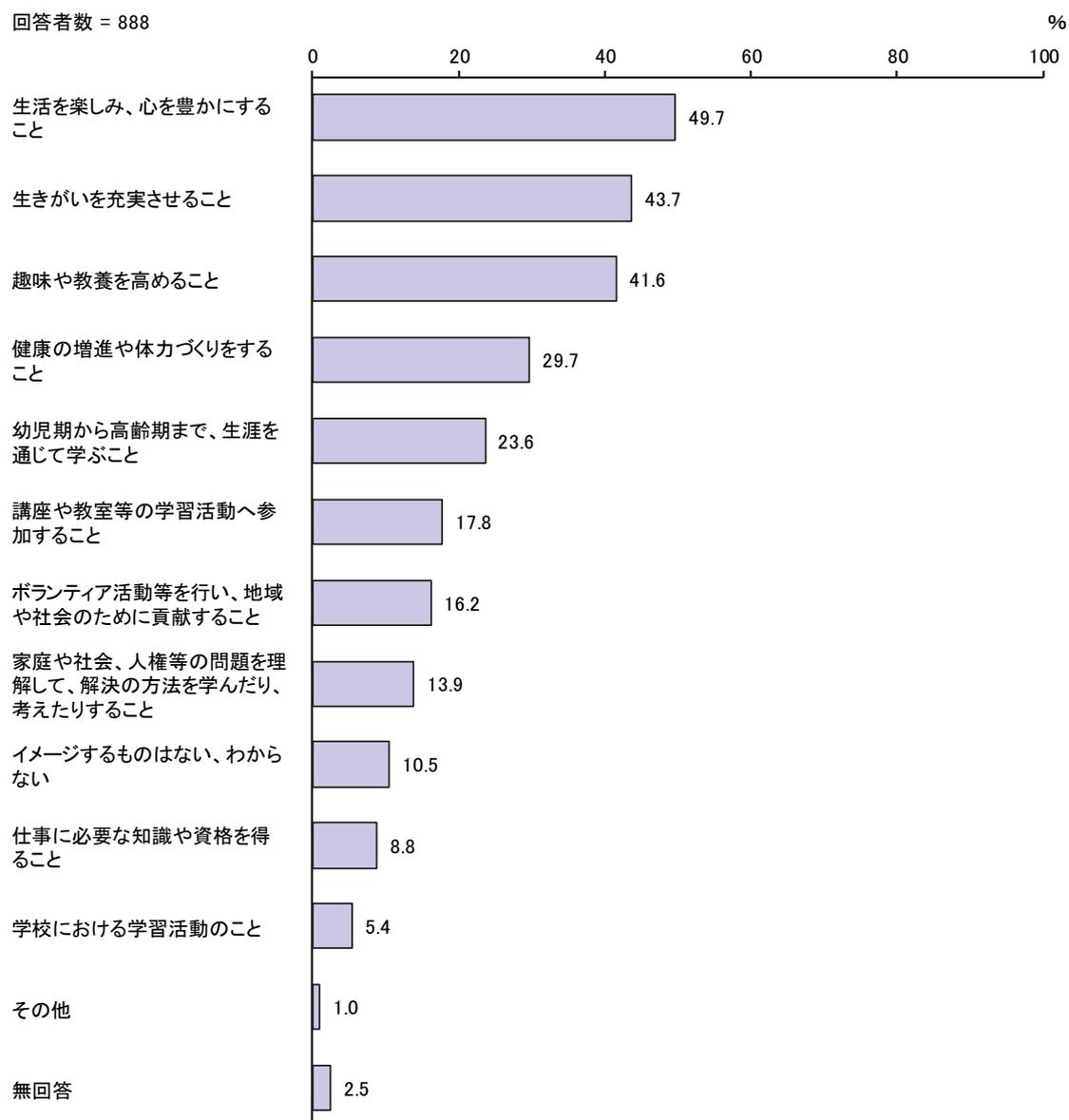
「いづらか感じる」の割合が46.2%と最も高く、次いで「とても感じる」の割合が37.7%となっています。



② 「生涯学習」のイメージ（問9・複数選択）

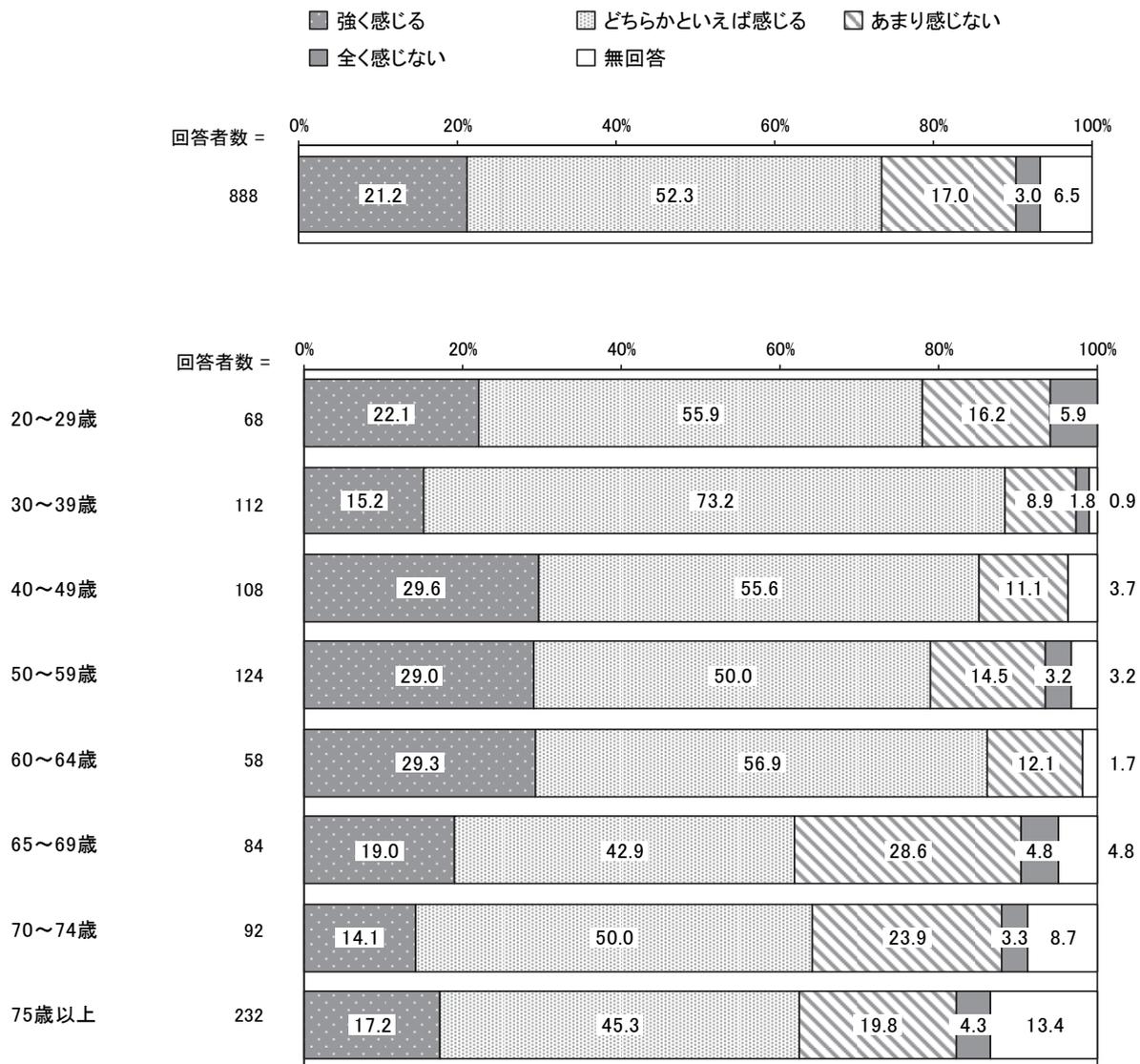
「生活を楽しみ、心を豊かにすること」の割合が49.7%と最も高く、次いで「生きがいを充実させること」の割合が43.7%、「趣味や教養を高めること」の割合が41.6%となっています。

回答者数 = 888



③ 「生涯学習」の必要性（問10・単数回答）

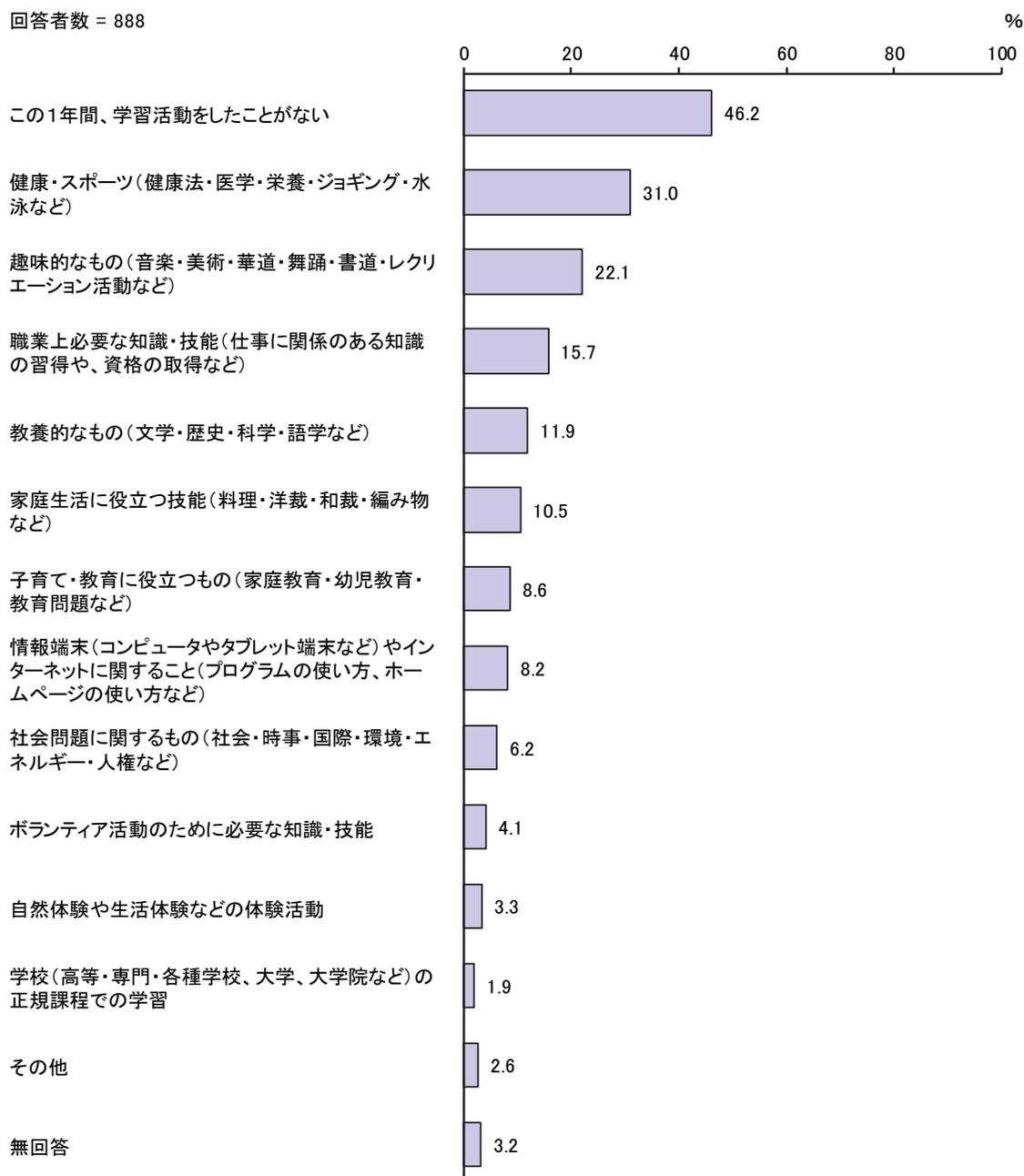
「どちらかといえば感じる」の割合が52.3%と最も高く、次いで「強く感じる」の割合が21.2%、「あまり感じない」の割合が17.0%となっています。年齢別でみると、40～64歳で「強く感じる」の割合が高くなっています。



④ 1年間の学習活動の内容（問11・複数選択）

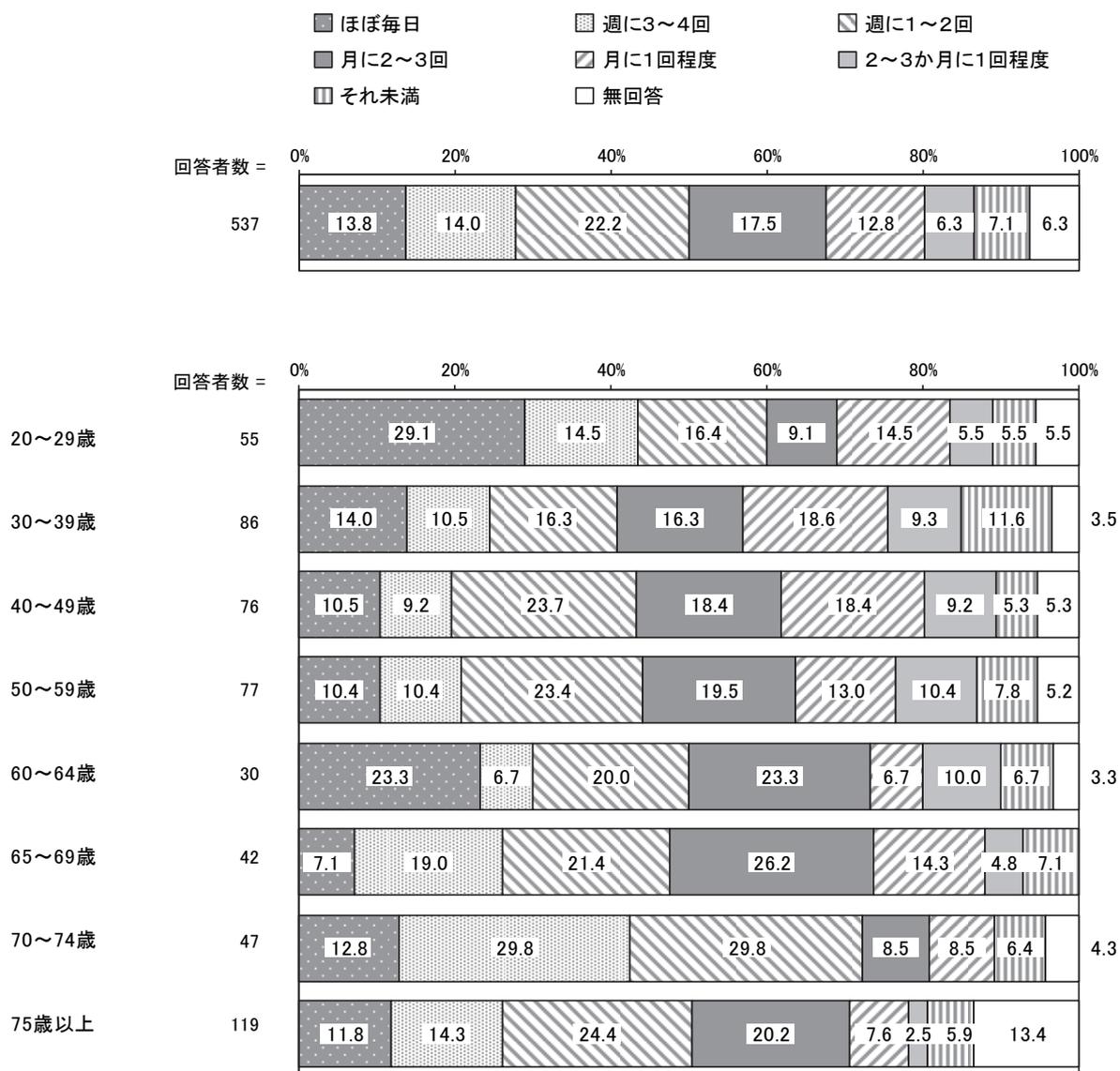
「この1年間、学習活動をしたことがない」の割合が46.2%と最も高く、次いで「健康・スポーツ（健康法・医学・栄養・ジョギング・水泳など）」の割合が31.0%、「趣味的なもの（音楽・美術・華道・舞踊・書道・レクリエーション活動など）」の割合が22.1%となっています。

回答者数 = 888



⑤ 学習活動の実施の頻度（問 11-1・単数回答）

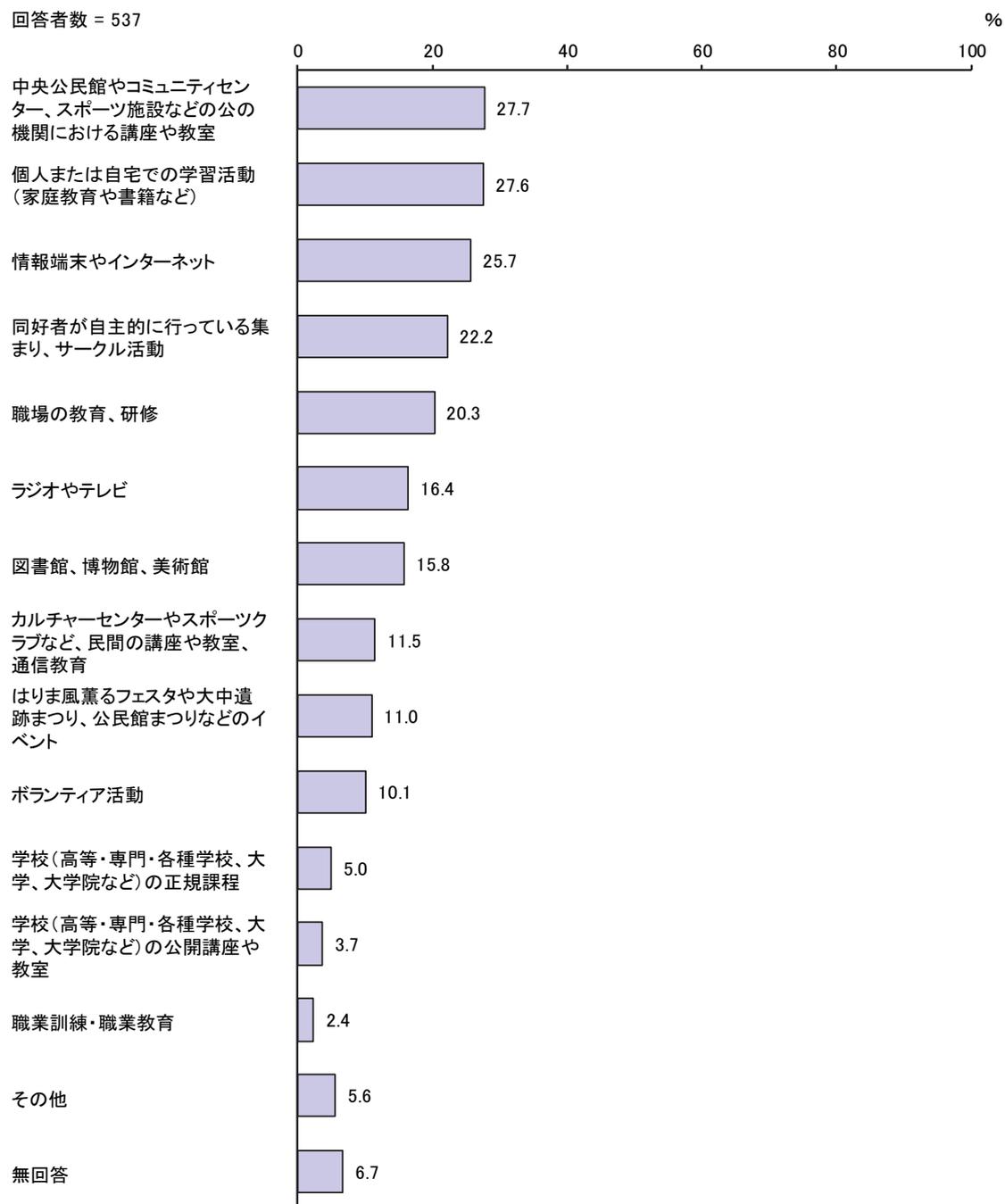
「週に1～2回」の割合が 22.2%と最も高く、次いで「月に2～3回」の割合が 17.5%、「週に3～4回」の割合が 14.0%となっています。年齢別でみると、70～74歳で「週に3～4回」「週に1～2回」の割合が高く、20～29歳で「ほぼ毎日」の割合が高くなっています。また、65～69歳で「月に2～3回」の割合が高くなっています。



⑥ 学習活動の場所や形態（問 11-2・複数選択）

「中央公民館やコミュニティセンター、スポーツ施設などの公の機関における講座や教室」の割合が27.7%と最も高く、次いで「個人または自宅での学習活動（家庭教育や書籍など）」の割合が27.6%、「情報端末やインターネット」の割合が25.7%となっています。

回答者数 = 537



年齢別でみると、75 歳以上で「同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動」の割合が高く、20～29 歳、40～49 歳で「個人または自宅での学習活動（家庭教育や書籍など）」の割合が高くなっています。

単位：%

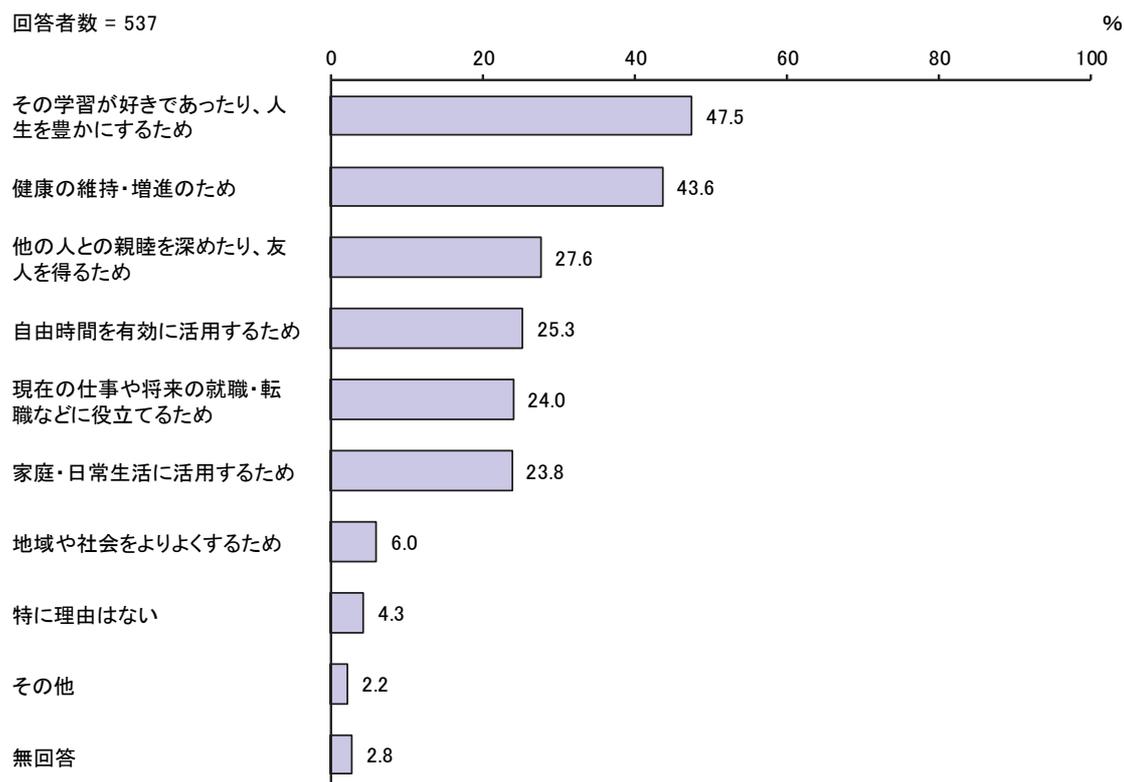
区分	有効回答数（件）	中央公民館やコミュニティセンター、スポーツ施設などの公の機関における講座や教室	はりま風薫るフェスタや大遺跡まつり、公民館まつりなどのイベント	カルチャーセンターやスポーツクラブなど、民間の講座や教室、通信教育	学校（高等・専門・各種学校、大学、大学院など）の公開講座や教室	学校（高等・専門・各種学校、大学、大学院など）の正規課程	職場の教育、研修	同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動
20～29 歳	55	10.9	5.5	7.3	12.7	21.8	34.5	9.1
30～39 歳	86	7.0	9.3	5.8	3.5	5.8	36.0	9.3
40～49 歳	76	26.3	9.2	14.5	2.6	6.6	34.2	17.1
50～59 歳	77	28.6	3.9	22.1	6.5	3.9	29.9	7.8
60～64 歳	30	33.3	13.3	26.7	—	—	16.7	23.3
65～69 歳	42	33.3	7.1	9.5	4.8	—	4.8	33.3
70～74 歳	47	40.4	10.6	6.4	—	2.1	4.3	25.5
75 歳以上	119	41.2	20.2	8.4	0.8	0.8	0.8	43.7

区分	図書館、博物館、美術館	ラジオやテレビ	情報端末やインターネット	個人または自宅での学習活動（家庭教育や書籍など）	ボランティア活動	職業訓練・職業教育	その他	無回答
20～29 歳	16.4	16.4	36.4	41.8	3.6	5.5	3.6	5.5
30～39 歳	19.8	4.7	38.4	34.9	2.3	4.7	8.1	7.0
40～49 歳	21.1	26.3	34.2	40.8	9.2	3.9	—	6.6
50～59 歳	13.0	15.6	35.1	32.5	9.1	2.6	5.2	3.9
60～64 歳	16.7	26.7	30.0	26.7	13.3	3.3	—	3.3
65～69 歳	21.4	23.8	14.3	14.3	14.3	—	2.4	9.5
70～74 歳	10.6	12.8	12.8	25.5	12.8	—	12.8	6.4
75 歳以上	10.1	15.1	8.4	9.2	15.1	—	8.4	9.2

⑦ 学習活動の理由（問 11-3・複数選択）

「その学習が好きであったり、人生を豊かにするため」の割合が 47.5%と最も高く、次いで「健康の維持・増進のため」の割合が 43.6%、「他の人との親睦を深めたり、友人を得るため」の割合が 27.6%となっています。年齢別で見ると、20～64 歳で「その学習が好きであったり、人生を豊かにするため」の割合が高く、65 歳以上で「健康の維持・増進のため」の割合が高くなっています。

回答者数 = 537

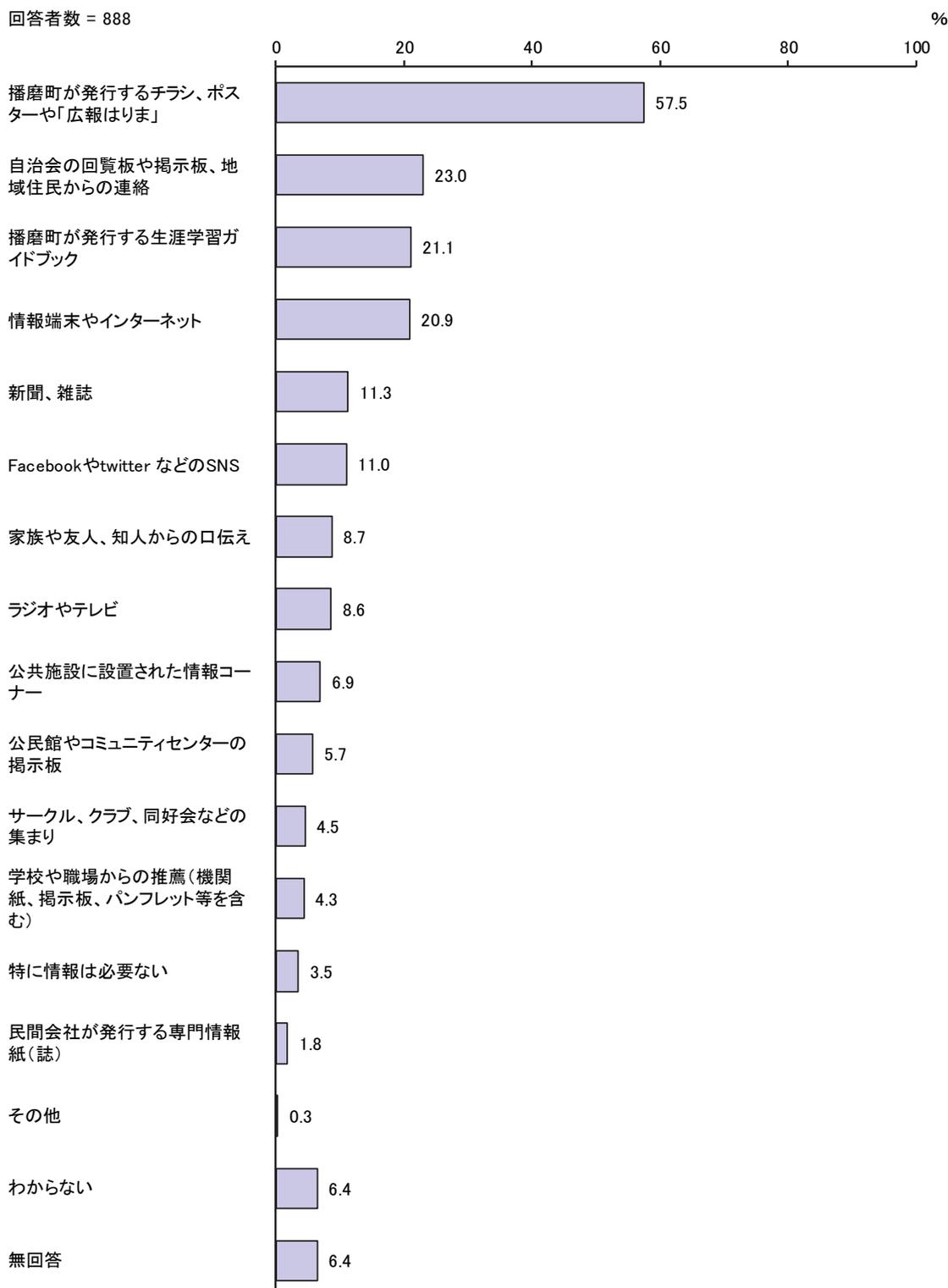


単位：%

区分	有効回答数（件）	その学習が好きであったり、人生を豊かにするため	家庭・日常生活に活用するため	自由時間を有効に活用するため	健康の維持・増進のため	他の人との親睦を深めたり、友人を得るため	現在の仕事や将来の就職・転職などに役立てるため	地域や社会をよりよくするため	その他	特に理由はない	無回答
20～29 歳	55	52.7	27.3	20.0	18.2	10.9	49.1	1.8	3.6	3.6	3.6
30～39 歳	86	51.2	41.9	20.9	17.4	14.0	44.2	1.2	1.2	—	2.3
40～49 歳	76	55.3	31.6	23.7	35.5	21.1	38.2	3.9	2.6	2.6	3.9
50～59 歳	77	46.8	18.2	19.5	33.8	15.6	36.4	7.8	3.9	5.2	2.6
60～64 歳	30	66.7	20.0	26.7	63.3	33.3	13.3	6.7	—	—	—
65～69 歳	42	42.9	21.4	28.6	52.4	31.0	—	9.5	—	4.8	—
70～74 歳	47	48.9	6.4	25.5	61.7	36.2	2.1	4.3	4.3	6.4	6.4
75 歳以上	119	35.3	16.0	33.6	68.1	49.6	0.8	9.2	1.7	8.4	2.5

⑧ 生涯学習に関する情報入手方法の希望（問13・複数選択）

「播磨町が発行するチラシ、ポスターや「広報はりま」」の割合が57.5%と最も高く、次いで「自治会の回覧板や掲示板、地域住民からの連絡」の割合が23.0%、「播磨町が発行する生涯学習ガイドブック」の割合が21.1%となっています。年齢別で見ると、30歳以上で「播磨町が発行するチラシ、ポスターや「広報はりま」」の割合が高く、20～29歳で「情報端末やインターネット」の割合が高くなっています。



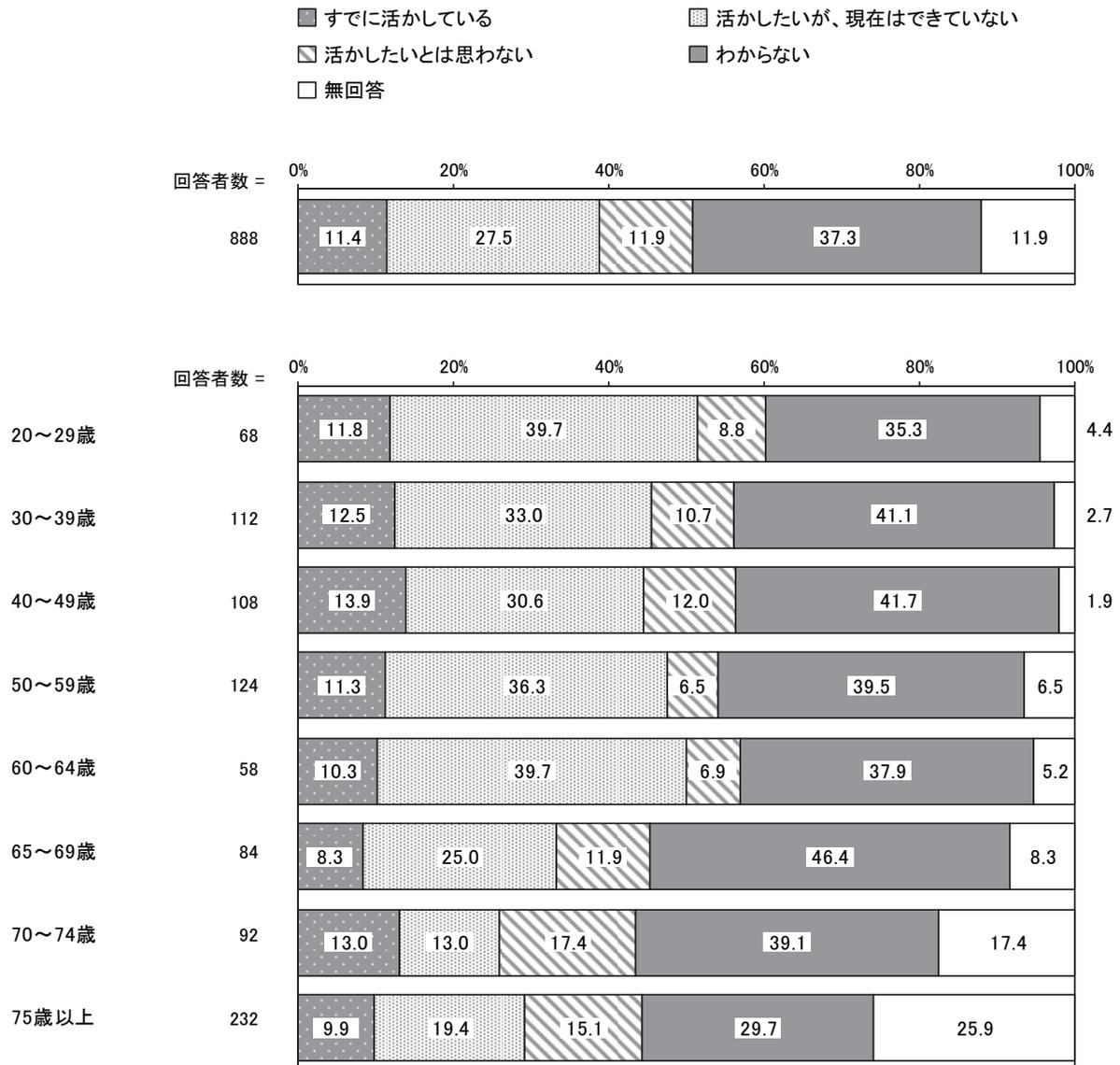
単位：％

区分	有効回答数（件）	播磨町が発行する生涯学習ガイドブック	播磨町が発行するチラシ、ポスターや「広報はりま」	公共施設に設置された情報コーナー	公民館やコミュニティセンターの掲示板	自治会の回覧板や掲示板、地域住民からの連絡	新聞、雑誌	ラジオやテレビ	家族や友人、知人からの口伝え
20～29 歳	68	5.9	38.2	11.8	5.9	13.2	13.2	11.8	17.6
30～39 歳	112	21.4	60.7	11.6	6.3	21.4	7.1	8.0	12.5
40～49 歳	108	21.3	66.7	9.3	8.3	17.6	13.0	7.4	9.3
50～59 歳	124	19.4	58.9	4.8	2.4	17.7	14.5	10.5	8.1
60～64 歳	58	32.8	63.8	10.3	6.9	25.9	15.5	5.2	6.9
65～69 歳	84	31.0	64.3	4.8	6.0	26.2	6.0	8.3	4.8
70～74 歳	92	27.2	58.7	3.3	4.3	25.0	7.6	6.5	7.6
75 歳以上	232	15.9	52.2	3.9	5.6	29.3	12.1	9.1	6.0

区分	サークル、クラブ、同好会などの集まり	学校や職場からの推薦（機関紙、掲示板、パンフレット等を含む）	民間会社が発行する専門情報紙（誌）	情報端末やインターネット	Facebook や Twitter などの SNS	その他	特に情報は必要ない	わからない	無回答
20～29 歳	7.4	8.8	5.9	42.6	41.2	—	1.5	10.3	—
30～39 歳	2.7	10.7	2.7	42.0	26.8	—	3.6	5.4	1.8
40～49 歳	1.9	11.1	2.8	36.1	13.9	—	—	5.6	1.9
50～59 歳	1.6	0.8	1.6	35.5	15.3	0.8	0.8	4.8	4.8
60～64 歳	8.6	3.4	—	19.0	5.2	1.7	5.2	1.7	—
65～69 歳	3.6	1.2	2.4	9.5	1.2	—	4.8	7.1	3.6
70～74 歳	5.4	1.1	—	4.3	1.1	—	4.3	7.6	8.7
75 歳以上	6.0	1.3	0.4	1.7	0.4	0.4	6.0	7.8	14.2

⑨ 生涯学習成果を地域や社会での活かすことへの希望（問 15・単数回答）

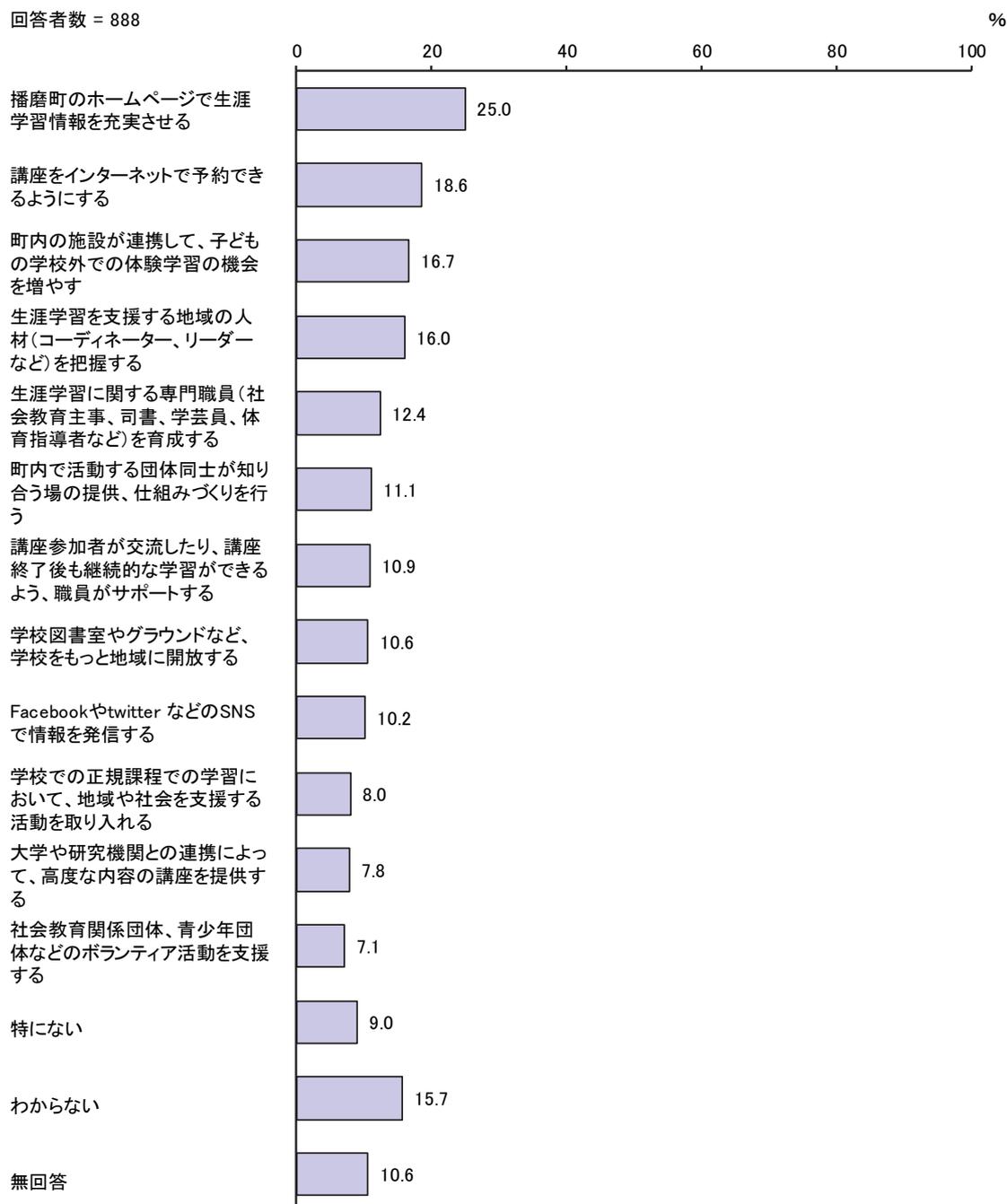
「わからない」の割合が37.3%と最も高く、次いで「活かしたいが、現在はできていない」の割合が27.5%、「活かしたいとは思わない」の割合が11.9%となっています。年齢別でみると、20～29歳、50～59歳、60～64歳で「活かしたいが、現在はできていない」の割合が高くなっています。



⑩ 学習活動をより盛んにしていくために、播磨町で力を入れるべきこと
 (問 17・複数選択)

「播磨町のホームページで生涯学習情報を充実させる」の割合が 25.0%と最も高く、次いで「講座をインターネットで予約できるようにする」の割合が 18.6%、「町内の施設が連携して、子どもの学校外での体験学習の機会を増やす」の割合が 16.7%となっています。

回答者数 = 888



年齢別でみると、40～69歳で「播磨町のホームページで生涯学習情報を充実させる」の割合が高く、30～39歳で「講座をインターネットで予約できるようにする」の割合が高くなっています。また、20～29歳で「FacebookやtwitterなどのSNSで情報を発信する」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	大学や研究機関との連携によって、高度な内容の講座を提供する	生涯学習に関する専門職員(社会教育主事、司書、学芸員、体育指導者など)を育成する	生涯学習を支援する地域の人材(コーディネーター、リーダーなど)を把握する	講座参加者が交流したり、講座終了後も継続的な学習ができるよう、職員がサポートする	講座参加者が交流したり、講座終了後も継続的な学習ができるよう、職員がサポートする	社会教育関係団体、青少年団体などのボランティア活動を支援する	播磨町のホームページで生涯学習情報を充実させる	講座をインターネットで予約できるようにする
20～29歳	68	10.3	11.8	14.7	13.2	8.8	25.0	33.8	
30～39歳	112	12.5	14.3	12.5	8.9	8.9	31.3	40.2	
40～49歳	108	13.9	16.7	16.7	13.0	8.3	41.7	40.7	
50～59歳	124	8.1	12.9	24.2	13.7	8.1	31.5	25.0	
60～64歳	58	6.9	10.3	22.4	22.4	6.9	34.5	13.8	
65～69歳	84	6.0	14.3	16.7	9.5	7.1	28.6	7.1	
70～74歳	92	3.3	13.0	16.3	5.4	5.4	14.1	4.3	
75歳以上	232	4.3	9.1	11.6	8.6	5.2	12.5	1.7	

区分	町内の施設が連携して、子どもや学校外の体験学習の機会を増やす	学校図書室やグラウンドなど、学校をもっと地域に開放する	学校での正規課程での学習において、地域や社会を支援する活動を取り入れる	町内で活動する団体同士が知り合う場の提供、仕組みづくりを行う	FacebookやTwitterなどのSNSで情報を発信する	特になし	わからない	無回答
20～29歳	30.9	19.1	19.1	14.7	38.2	1.5	11.8	2.9
30～39歳	35.7	13.4	10.7	8.0	25.0	4.5	12.5	1.8
40～49歳	32.4	12.0	13.0	9.3	14.8	0.9	11.1	1.9
50～59歳	11.3	13.7	5.6	10.5	10.5	6.5	10.5	4.8
60～64歳	13.8	10.3	3.4	13.8	5.2	6.9	10.3	3.4
65～69歳	9.5	9.5	8.3	10.7	2.4	9.5	19.0	8.3
70～74歳	6.5	4.3	—	13.0	—	19.6	19.6	17.4
75歳以上	6.0	6.9	6.0	11.2	1.3	14.7	21.6	22.8

■ 調査の概要

○ 調査の目的

生涯学習推進計画を新たに策定するにあたり、アンケート調査の結果を補完するため、播磨町における教育の現状と課題を把握するために、町内の生涯学習関連団体に対してヒアリング調査を実施しました。

○ 調査対象

本調査では、アンケートでは聞き取ることができない播磨町の生涯学習を取り巻く現状を把握するため、以下の教育関連施設・団体を対象にヒアリング調査を実施しました。

- ① 青年層の生涯学習に関する団体（播磨ゆめづくり塾「マチで暮らそう。はりま
で育ち塾」）
- ② 子どもの生涯学習に関する団体（放課後子ども教室「みんなでアソビバ」）
- ③ 高齢者の生涯学習に関する団体（播磨町シニアクラブ連合会）
- ④ 特別な支援を必要とする子どもたちの生涯学習に関する団体（播磨町手をつな
ぐ育成会）

○ 調査方法

- ① 依頼文・シート作成
- ② ヒアリング対象先へシート記入依頼
- ③ ヒアリング対象先に WEB ID 送信もしくは WEB 機材送付
- ④ 指定日に WEB 会議実施

○ 調査実施時期

令和3年2月

主な意見

区分	対象者	主な内容
(1) 青年層の生涯学習に関する団体	播磨ゆめづくり塾「マチで暮らそう。はりまで育ち塾」	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動をする上でのモチベーション <ul style="list-style-type: none"> ・活動したいという思いを持っていても行う機会やきっかけがない人たちは、何かしたいという気持ちがモチベーションとなっている。 ・主催者として自分たちの活動に賛同して協力してくれる人がいること。 ○ 主な活動内容について <ul style="list-style-type: none"> ・若い人たちを中心に夢づくり塾などまちづくり活動を、播磨町の事業の一環としてみんなで考えながら行っている。(若い人たちにとってのサードプレイスづくり。) ・ボードゲーム、オンライン上での写真展など ○ 活動を通じて抱えている課題について <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で参加人数の制限などがあり、人を集めてのイベントを開催できない状態。 ・SNSでの広報活動も行っているが、播磨町で検索する人が少なく、効果が少ない。情報を「つなげる」・「届ける」ことの難しさ。 ・オンラインを活用することと活動の趣旨をすり合わせる事が難しい。 (オンラインで代用できるものばかりでない。) ○ 播磨町に期待すること、特に重点を置いてほしいこと <ul style="list-style-type: none"> ・播磨町は高齢者や子育てについては支援が充実していると感じているが、若い人たちに対して何を求めているかがわかりにくい。 ・若年層世代(特に10～20代)が町内で楽しめる環境があれば良いと思う。

区分	対象者	主な内容
(2) 子どもの生涯学習に関する団体	放課後子ども教室「みんなでアソビバ」	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動を行う上でのモチベーション <ul style="list-style-type: none"> ・新しい出会いがあること。人と人との笑顔が集まってくることが一番の原動力になっている。 ○ 主な活動内容について <ul style="list-style-type: none"> ・週1回各小学校区にて、自由に過ごす居場所づくりを目的に放課後子ども教室を運営している。 ・場所は本来であれば学校の空き教室を使用するが、播磨町内の学校は空き教室が少ないため、コミュニティセンターや福祉会館、公民館などできるだけ学校に近いところを使用している。 ○ 活動を通じて抱えている課題について <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの集まりが少ない。特に立ち上げに携わっていく人が少ない。 ・地域の方とのつながりづくりが難しい。 ○ 播磨町の子どもたちについて感じる事 <ul style="list-style-type: none"> ・のんびりした子どもが多い。 ・播磨町は子どもが育つ環境としてはよいところ。 ○ 播磨町の子どもたちを取り巻く教育環境について感じる事 <ul style="list-style-type: none"> ・播磨町は子育てサービスは非常に充実していると感じている。それにより親が自分たちで子どもを育てていくという意識が薄れてしまっていると感じる。 ○ 播磨町に期待すること、特に重点を置いてほしいこと <ul style="list-style-type: none"> ・全ての子どもたちが年齢を問わずに、いつでも来ることができる場所として、その機能を有する施設をつくっていただきたい。
(3) 高齢者の生涯学習に関する団体	播磨町シニアクラブ連合会	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動を通じて抱えている課題について <ul style="list-style-type: none"> ・何と言っても高齢化が進んでいること。 ・最近の高齢者は時間等に余裕があり、個人個人で気の合う仲間との交流に軸足を置いているため、団体の役員などはやりたがらない。 ○ 今後の展望について <ul style="list-style-type: none"> ・全国的に老人クラブの構成人数は減少の一途をたどっている。様々なテコ入れ策を講じてはいるが減少傾向に歯止めはかかってはいない。 ○ 播磨町に期待すること、特に重点を置いてほしいこと <ul style="list-style-type: none"> ・経験豊富な人生を何かの役に立てたいという人材が多数存在している。その存在を播磨町の役に立てていく手法を考えるべきと思う。 ・元気な高齢者に介護予防・認知症予防の担い手になってもらうという事業などを立ち上げれば、自身の介護・認知予防にも直結する。事業として成り立てば、生きがいともなり得ると思う。

区分	対象者	主な内容
(4) 特別な支援を必要とする子どもたちの生涯学習に関する団体	播磨町手をつなぐ育成会	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動を行う上での思いやモチベーション <ul style="list-style-type: none"> ・親の悩みを抽出して共有することで、子どもたちが困らないようにしていくことが大事だと考えている。 ○ 学校教育における現状と課題について <ul style="list-style-type: none"> ・障がい児の増加に伴い地域の小学校の特別支援学級が増えていて、先生が対応しきれなくなっている。 ○ 学校卒業後の学びにおける現状と課題について <ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の進路の提案がほとんど就労場所に関することである。 ・学びの環境がほとんどない。あったとしても都市部にしかなく、地域差があるため通えない人がいる。 ・サークルを主催しているが、維持していくのが難しい。 ・保護者としては、育てていくことで精いっぱい情報までたどり着かない。 ○ 今後の展望について <ul style="list-style-type: none"> ・播磨町での生涯学習の拠点を作ってほしい。そこが中心となって既存の施設を巻き込みながら学習機会をつくっていく。 ○ 播磨町に期待すること、特に重点を置いてほしいこと <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者の目線に立った施策をしてほしい。 ・町発信でオンラインを活用することによって、障がい者の学べる環境づくりができると思う。

6 計画の歩み

年 度	内 容
平成15年度	生涯学習推進計画（前期）策定（平成15年度から平成18年度）
平成18年度	生涯学習推進計画（後期）策定（平成19年度から平成22年度）
平成22年度	生涯学習推進計画（前期）策定（平成23年度から平成27年度）
平成27年度	生涯学習推進計画（後期）策定（平成28年度から平成32年度）
令和3年度	生涯学習推進計画（前期）策定（令和3年度から令和7年度）

7 用語解説

【あ行】

生きる力

予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力のこと。

インクルーシブ教育

多様なニーズに対応できるように障がいのある子どもを含むすべての子どもを包含する教育のこと。

【か行】

外国人英語指導助手（ALT）

小中学校、高等学校などの英語の授業で日本人教師を補助する役割を担う。

学習指導要領

全国のどの地域で教育を受けても、一定の水準の教育を受けられるようにするため、文部科学省において、学校教育法などに基づき、各学校で教育課程（カリキュラム）を編成する際の基準を定めたもの。

環境教育

人間と地球環境との関わりについて理解を深め、環境の回復、創造に向けた知識や関心を高める教育のこと。

共生社会

誰もが相互に人格と個性を尊重し支えあい、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会のこと。

【さ行】

持続可能な社会

将来の世代が必要とするものを損なうことなく、現在の世代の要求を満たすような開発が行われている社会のこと。

主体的・対話的で深い学び

各教科などの特質に応じた物事を捉える視点や考え方を育むことに留意し、子どもが各教科などの特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えをもとに創造したりすることに向かう過程を重視した学習のこと。

生涯学習社会

「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会」（教育基本法第3条・生涯学習の理念より）のこと。

人生100年時代

健康寿命が高齢化し、個人が平均的に100歳前後まで生存することが可能になった時代のこと。

成人教育

広義には、一般成人を対象とし、学校教育で習得した知識、技能の基盤のうえに、社会生活に必要な各種の学習の機会を提供する教育のこと。

【た行】

点検・評価

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等のことで、地方教育行政の組織及び運営に関する法律において、教育委員会は、教育行政事務の管理執行状況について、自己点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表しなければならないと定められている。

【は行】

ビッグデータ

数百テラ（1兆）バイトからペタ（1,000兆）バイト級の膨大なデジタルデータの集積のこと。ビッグデータには文字、数字、図表、画像、音声、動画など、さまざまなタイプのデータが含まれる。ビッグデータの解析から得た知見を、マーケティングなど企業経営や新しいビジネスの創造に活かそうという動きが活発化している。

ファミリー・サポート・センター

会員同士がお互いに助けあう子育ての相互援助の会のこと。会員は依頼会員（子育ての手助けをしてほしい方）、協力会員（子育ての応援をしたい方）、両方会員（依頼と協力の両方を行いたい方）で構成されている。

ホームページ

公式サイトのこと。
公式サイトとは、官公庁等の当事者が、その組織紹介などのために開設した、インターネット上のサイトのこと。

【ら行】

リカレント教育

生涯を通じて、職業能力の向上や新しい知識や技術の習得、専門的な知識や知見を仕事に活かすための社会人の学び直しのこと。

【アルファベット】

ICT (Information and Communication Technology)

情報通信技術の略。学校においてパソコンやデジタルテレビを導入し、授業での子どもたちの情報活用能力の育成を図る。教師による学習指導の準備と評価のための活用や授業での活用も行われている。

IoT (Internet of Things)

「モノのインターネット」といわれ、情報伝達機能をモノに組み込み、インターネットでつなぐことで、モノからデータ取得したりモノそのものを遠隔操作する仕組みのこと。

PDCA

マネジメント手法の一種で、「計画」(Plan)、「実施」(Do)、「評価」(Check)、「改善」(Action)の頭文字をとったもの。

SNS

インターネットを介して人間関係を構築できるスマートフォン・パソコン用のWebサービスの総称。

SWOT分析

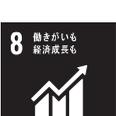
おかれている現状を分析し、方向性や改善点を見つけ出すフレームワークのこと。本町の生涯学習を取り巻く現状を“強み (strength)”と“弱み (weakness)”、“機会 (opportunity)”と“脅威 (threat)”を整理するもの。

Society 5.0

サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society)。

8 本計画と「持続可能な開発目標（SDGs）」との関係

平成27年9月に国連サミットで持続可能な開発目標（SDGs）が採択されました。SDGsは17の目標（ゴール）と169のターゲットからなる行動指針で、誰一人取り残されない社会の実現に向けた取り組みを推進します。本町の生涯学習計画においては、17の目標のうち特に3、4、11、17の4つが大きく関わっています。

SDGsの目標			
	目標1 あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる		目標10 各国内及び各国間の不平等を是正する
	目標2 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する		目標11 包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する
	目標3 あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する		目標12 持続可能な生産消費形態を確保する
	目標4 すべての人々への、包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する		目標13 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる
	目標5 ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う		目標14 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
	目標6 すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する		目標15 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する
	目標7 すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する		目標16 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
	目標8 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する		目標17 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する
	目標9 強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る		

播磨町生涯学習推進計画
(第3次)

令和3年9月

播磨町教育委員会 生涯学習グループ

住 所：〒675-0182

兵庫県加古郡播磨町東本荘1丁目5番30号

T E L : 079-435-0565 F A X : 079-437-4193